第1表 22観測所における相対湿度の経年変化

地名	(N. Latitude,	E. Longitude)	観測期間 (n)	平均湿度 a (%)	b (%/year)
網走	44° 01′	144° 17′	1891 — 1959 (69)	78.8	− 0.025
旭川	43 46	142 22	1917 — 1959 (43)	80.3	− 0.119
帯広	42 55	143 13	1916 — 1959 (44)	77.2	− 0.024
寿都	42 47	140 14	1888 — 1959 (72)	77.5	− 0.019
水沢	39 08	141 08	1902 — 1958 (57)	80.2	+ 0.029
石巻	38 26	141 18	1888 — 1959 (72)	79.9	− 0.041
山形	38 15	140 21	1911 — 1959 (49)	79.0	− 0.081
金沢	36 33	136 39	1909 — 1959 (51)	76.6	+ 0.011
前橋	36 24	139 04	1897 — 1959 (63)	70.3	− 0.072
熊谷	36 09	139 23	1897 — 1959 (63)	74.1	− 0.043
高山	36 09	137 15	1904 — 1959 (56)	80.1	− 0.047
東京	35 41	139 46	1923 — 1959 (37)	71.9	− 0.087
横浜	35 26	139 39	1928 — 1959 (32)	74.6	− 0.085
彦根	35 16	136 15	1894 — 1959 (66)	78.9	+ 0.005
名古屋	35 10	136 58	1923 — 1959 (37)	76.0	− 0.078
京都	35 01	135 44	1914 — 1959 (46)	75.4	− 0.116
浜田	34 54	132 04	1893 — 1959 (67)	73.2	− 0.031
大阪	34 39	135 32	1934 — 1959 (26)	72.1	− 0.148
多度津	34 16	133 45	1893 — 1959 (67)	75.4	0.000
厳原	34 12	129 18	1896 — 1959 (64)	73.2	− 0.047
福岡	33 35	130 23	1939 — 1959 (21)	76.2	− 0.137
熊本	32 49	130 43	1902 — 1959 (58)	76.8	− 0.053

(平均: −0.055)

文献

1) 荒川秀俊, 1956: 極東における年降水総量の変動, 天気, 5月号

2) 荒川秀俊, 1956: 雨量の増大と水災の増加, 天気, 7月号

3) 荒川秀俊, 1959: 気候変動論, 地人書館, 改訂版81〜84頁

気象の英語 (42)

45. some と any

中学校の教科書には, 〝ある量の〟, という意味の somy と any の使い方について, 〝some は肯定文に使い, any は疑問文, 否定文に使う〟と書いてあり, 疑問文に some を使うと誤まりである, としているものが多い.

これに災されて, 疑問文に some を使ってはいけないと思い込んでいる向きがある. しかし, C.O.D. を見ると

some=a certian quantity or number of (something)=ある量 (また数) の, という意味のところに,

Can we have some milk ?=少しミルクを頂けますか?

Can't we have some milk ?=少しミルクを頂けませんか?

という例が出ている. したがって, 疑問文でも, some は使って良いことがわかる.

すると, 疑問文に使った any と some との違いが問題になる. もう一度, C.O.D. で any を引くと

any=(疑問文で) one, some, (no matter which)

とあるから, any は〝どれでもよいから〟という気持が強く, some は〝ある量の〟という気持が強い, と思われる. つまり Can we have any milk ? は〝どのミルクでもよいからくれませんか〟という意味. Can we have some milk ? は〝ミルクを少し下さい〟という意味で, くれることはわかっているのであろう. (有住)